

リンロン®テープの生分解過程

リンロン®テープは、ユニチカ㈱の生分解樹脂テラマック®を材料に作られた商品で、およそ5年程度で分解するといわれている。しかし生分解の過程は、加水分解後に微生物分解するため加水分解の速度や、微生物の多少など施工現場の環境によりその分解期間は大きく差がでる。

そこで、実際の施工現場で分解時間の検証と分解過程を観察した結果を報告する。

施工現場 京都府美山町 2006年4月施工

撮影日 2006年7月及び 2011年3月



↑ ↓ 施工から5年経過したリンロンテープ ↑ ↓ 施工直後



↓ 施工から5年経過したリンロンテープの拡大写真

施工から5年後の状態

リンロンテープの形状は、乳白色でやや硬い質感のあるテープである。5年経過したものは写真のように透明度が高まりテープの巻き方向に裂けが目立ち糸状になっていた。一部は糸状のものが切れ施工直後の原形をとどめず、剥皮害防護の役目を果たさないまでに分解している箇所もある。

当現場ではテープ幅が細くなった状態で樹幹に巻きついている状態が確認された。



©東エコーセン㈱